

現代経営学演習（8単位）

担当教員 内田浩史
uchida@harbor.kobe-u.ac.jp

I. 演習の目的

この演習（ゼミ）では、専門職学位論文（修士論文）の作成に関する研究指導を行います。MBAの修士論文は、

- ・皆さんがビジネスの現場で感じている問題意識に関して、
- ・研究のテーマを定め、
- ・Research questionを設定し、
- ・Evidenceに基づく答えを出すことで、
- ・問題解決につながる示唆を得ようとするもの

です。このために、既存研究を批判的に検討し、理論仮説を設定し、データを収集・分析し、得られた結果を検討します。どこかで聞いたようなありきたりの結論ではなく、自分で得た独自のevidenceに基づき、実務に示唆を与えるオリジナルの結論が得られるような修士論文を執筆することを目的とします。

この演習では主として次の2つのタイプの修士論文に関する指導を行います。

- 1) ファイナンス分野（銀行・金融機関、企業金融他）を研究領域とする論文
- 2) 経済学のアプローチを用いた論文（分析手法として定量的分析（計量経済学）を用いた研究 and/or 理論的根拠としてミクロ経済学・ゲーム理論・契約理論を用いた研究）

とはいえ、ファイナンス分野の研究はほとんど経済学のアプローチを用いて研究が行われますから、1)は2)に含まれます。したがって、この演習では2)のタイプの論文の書き方を学ぶこととなります。

この演習は、スケジュールに沿って準備・学習し、ご自身がお持ちの問題意識を深く掘り下げて検討・分析することによって、自然と修士論文ができあがるように設計しています。しかし、修士論文は「先生」から受動的に「指導」を受けていれば勝手に出来るものではありません。教員・サポート教員・TA・他のゼミ生のサポートを得ながら、自身で主体的に作業を進めることを心がけてください。

●ゼミのモットー

- ・客観的に、深く、多面的に考え、徹底的に議論する
- ・ゼミに関わる全員が互いを思いやり・尊敬する
 - ・研究内容を憎んで人を憎まず
 - ・Cool head, warm seminar

II. 今年度の目標

この演習の最終目標は、次年度（2016年度）8月の提出期限までに修士論文を完成させることです。その目標に向かって、今年度は

- ・年度終了時点で具体的な研究計画が固まり、
- ・実際の研究作業が始まっている

状態になることを目標とします。その過程では、

- ・研究には大量・多様なインプットが必要であること、
- ・そのために予想以上の時間がかかること、
- ・したがって効率的にデザインしながら研究を進める必要があること、

を理解するとともに、必要不可欠なインプットの手段の一つとして、統計分析のスキルを身に付けます。

III. 演習の内容とスケジュール

下記の表（予定）のとおり、今年度は主として上記2）に関し、

- ①リサーチデザイン（どのように研究を計画し、進め、論文を執筆すればよいのか）
- ②計量経済学（定量的分析）の手法、

の二つを中心的に学びます。各回ごとに講義を聞いたりマイルストーンとなる課題にチャレンジし、積み重ねて学習していくことで、実行可能な研究計画を設計し、実際に研究（の準備段階）を開始します。

このスケジュールは、それに沿って学ぶことで修士論文作成の準備ができるように設計しています。しかし（繰り返します）、論文執筆は想像以上に時間のかかるプロセスです。来年4月から準備を始めれば何とかなるようなものでは（全く）ありません。課題をこなすのではなく、常に先取りしながら作業を進めることを心がけてください。

【予定表】（ゼミ生の興味や関心、進捗状況等により多少変更する可能性があります）

回	日程 時限	テーマ	内容	目的
1	8月15日	オリエンテーション	教員・TA自己紹介 ゼミの説明	スケジュール・進め方等の説明
	3,4,5	研究計画プレゼンテーション1	ゼミ生による研究(修士論文)計画の発表	自己紹介、問題意識、修士論文の方向性を共有・確認し互いにコメントする
2	9月12日	リサーチデザイン(講義)	科学的思考とは、研究とは、統計分析の重要性、統計的推論、検定とは	修士論文を書くとはどういうことかを知る
	3,4,5	過去MBA修士論文の検討	グループによる発表、ディスカッション	修士論文とはどういうものか、どんな構造かを理解する
3	10月17日	データ分析の方法(演習)1	Stataの使い方、記述統計	統計分析の手法を習得する
	3,4,5	MBA修士論文執筆について1	OBによる講演、ディスカッション	修士論文作成のイメージをつかむ、スケジュール感、注意点を知る
4	11月7日	統計分析講義1	t検定等	統計分析の手法を学習する
	3,4,5	データ分析の方法(演習)2	Stataを用いたクロス分析、t検定	統計分析の手法を習得する
5	12月19日	統計分析講義2	回帰分析、回帰係数の検定等	統計分析の手法を習得する
	3,4,5	データ分析の方法(演習)3	Stataを用いた回帰分析	統計分析の手法を習得する
		MBA修士論文執筆について2	OBによる講演、ディスカッション	修士論文作成のイメージをつかむ、スケジュール感、注意点を知る
6	1月30日	データ分析の方法(演習)4	Stataを用いたダミー変数の利用、他	統計分析の手法を習得する
	3,4,5	研究計画プレゼンテーション2	ゼミ生による研究(修士論文)計画の発表	方向性の確認・軌道修正、具体化
7	2月20日	実証研究の紹介1	学者による実証研究(論文)の紹介	Academicな(厳密な)実証研究を知る
	1,2	MBA修士論文執筆について3	OBによる講演、ディスカッション:特にアンケート・インタビューの方法について	修士論文のイメージをつかむ、スケジュール感、注意点を知る
8	3月26日	実証研究の紹介2	学者による実証研究(論文)の紹介	Academicな(厳密な)実証研究を知る
	1,2,3,4,5	MBA修士論文執筆について4	OBによる講演、ディスカッション:特にアンケート・インタビューの方法について	修士論文のイメージをつかむ、スケジュール感、注意点を知る
		研究計画プレゼンテーション3	ゼミ生による研究(修士論文)計画の発表	研究計画をほぼ確定し、執筆を進める

なお、第1回目、ならびにOBのゲストを迎える回などにおいては、演習終了後に懇親会を予定しています。是非ご予約・ご参加ください。

IV. 成績評価の方法

主として修士論文の審査結果に基づきますが、ゼミ（他のゼミ生）に対する貢献度、出席等もふまえ、総合的に評価します。せっかく MBA で学ぶのですから、他のメンバーの研究にも関わって相互に学ぶことで、自身の修士論文の範囲での狭い考察に留まらない、多様な考え方を身に付けましょう。このため、当然のことながらすべての回に出席することを前提とします。

V. 参考文献

各回の演習の内容に関する参考文献は適宜紹介しますが、全体的には以下が参考になります。

- ・神戸大学専門職大学院（MBA）編（2015）『人生を変える MBA』有斐閣（特に第 19 章）
- ・過去の MBA 生の優れた修士論文

<http://mba.kobe-u.ac.jp/life/thesis/workingpaper/index.htm>